

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1171900259		
法人名	株式会社カネット・ふれあい		
事業所名	グループホームふれあい多居夢・戸田		
所在地	埼玉県戸田市川岸3-5-1		
自己評価作成日	平成22年1月18日	評価結果市町村受理日	平成22年4月20日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kohyo-saitama.net/kaigosip/Top.do">http://www.kohyo-saitama.net/kaigosip/Top.do</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ケアマネージメントサポートセンター
所在地	埼玉県さいたま市中央区下落合五丁目10番5号
訪問調査日	平成22年2月2日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

職員がスキルアップする為に勉強に取り組み、資格取得を目指している。  
個々がスキルアップを図ると共にホーム全体でのケアの質の向上に努めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

・理念に基づき真心で利用者との適切な関わりが持たれている。こまめな声かけや会話の時間を長く持つことで、利用者一人ひとりが話しやすい環境づくりがされている。また、利用者を尊重し何事も利用者個々のペース・時間を大切にすることを職員に徹底されている。  
・職員研修システムが確立し、サービスの質の向上に活かされている。新人研修や中堅者研修など職員の各階層ごとの研修システムが整備され、職員のスキルアップのための全社的な取り組みが行われている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	全体会議等を通じて理念への意識付けや共有を図り、実践につなげるよう努めている。	職員自ら考え、話し合いをして事業所独自の理念「穏やかに・おだやかに」を決め、全体会議などで理念を確認・共有している。職員の行動や声かけの仕方を見直し、利用者個々にあわせ、日々穏やかに過ごせるよう実践されている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	玄関先の花への水やりや、近隣への散歩等の際、積極的に挨拶をし、交流を図るようにしている。	自治会に加入し、盆踊りなど季節行事に職員とともに参加し、日常の散歩でも地域住民との交流が図られている。事業所施設を町内会のお神輿の休憩場所や災害時避難場所として提供されている。	児童や中学生との交流、認知症サポーター要請講座、アニマルセラピーなど取り組み、利用者や地域の方々の交流や楽しみの機会が増えることを期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	主に運営推進会議や、町内会の行事参加等を通じ、認知症の方やその接し方等理解頂けるように努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	家族や市の職員の方、地域の方の意見や意向を取り入れ、フロア内で話し合い、入居者様方へのケアにつなげている。	家族代表の出席者は順番として、より多くの家族に出席していただくよう配慮されている。会議での提案から浅草、巢鴨、与野ばら公園などへの外出支援が行われている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の介護相談員からの意見を定期的に聞く事で、サービスの質の向上に努めている。	市の介護相談委員の定期訪問や事業所からの情報提供ほか、町内会行事にもお招きしコミュニケーションを図るなど、良好な協力関係がつけられている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束や言葉による拘束に留意し、ケアにあたっている。 玄関の施錠については建物の構造上、防犯の為24時間施錠となっている。	3ヶ月に1回、身体拘束廃止委員会が行われ、身体拘束の内容とその弊害についての話し合いがもたれ、身体拘束をしないケアに向けた取り組みが行われている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	県での研修会の参加や、ホーム内での身体拘束廃止委員の設定等により、身体拘束や虐待の防止の意識を高めるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	関連の研修案内を周知し、学びの機会を伝えている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書と重要事項説明書の読み合わせを行い、理解・納得を得ている。改定や解約時にも説明・話し合いの場をもち納得が得られるよう努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	主に面会時に状態を知らせ、今後についての意見や要望等を聴取し、ケアや、運営に取り入れている。	面会時や電話連絡の時などを活用し、意見・要望を聞き出している。家族からの要望で認知症サポーター養成講座などの開催が企画されている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的に会議を行い、職員の意見や提案を取り入れるよう努めている。	定例ミーティングや社長との個別面談時に聞きとりが行なわれ、研修システムの整備や水分が取りにくい利用者対策としてゼラチンパウダーを使用するなど事業所運営に反映されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	現在人員不足の為、超過勤務が多く発生しているが、それを承認しつつ、人材確保や派遣職員の一時的雇用等対応している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修の開催(4回/年)による機会と、外部研修への参加機会を促し、スキルアップが図れるよう努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	空室情報の提供や、同業者からの見学に随時対応する等を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初期段階では、出来るだけ早くホーム生活になじむよう、職員や他入居者との人間関係の構築や精神面での支援を中心に関わっている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	見学や入居前の面談、契約時等において、その時々思いや考え、要望等を聴取し、それに対し、何か出来るのかを説明している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族からの情報の聴取と、入居者の状態を合せて初期の対応を決め、家族へ説明し、ケアプランへ反映させている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	介護者は、共に生活を送り、同じ時間を過ごす者として、一緒に過ごす時間を意識的にとるよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の事情もふまえた上で、互いに負担のないよう(入居者と家族が)関わりを持つ事を配慮している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	年賀状のやりとりや、友人の来訪等には最大限、その関係が途切れないよう留意し、支援している。	利用者の大好きな戸田競艇場や浅草、馴染みの飲み屋街などへ外出されたり、友人への電話取り次ぎや手紙での連絡を取り持つなど関係継続への支援がなされている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	少人数の人間関係の難しさはあるが、その中でも孤立させないように、職員が介入し、緩和を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後も家族の相談に応じている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の意思が確認できない場合は、これまでの生活歴や家族からの情報から、何を望んでいるのか？何が本人にとって必要なのか？等を考え対応を検討している。	ありがたい言葉を大切にした話しやすい環境や信頼関係を築くための関わりが持たれている。夜勤時にお茶を飲みながら、ゆっくり話す機会を設けるなどして、希望・意向の把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの生活歴を知る事の大切さを職員が意識し、なじみや生活リズムを崩さない対応を考え実践につなげるよう努力している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の記録をもとに、関わり方やその反応、経過等々、現状把握と今後の予見・目標を検討し、話し合い、情報の共有を図っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	居室担当を中心にチーム全体で入居者を観察・対応し、そこから得た情報を家族や医療機関等へ伝え、その後のケアへ反映させている。	職員の日常の関わりから得た情報、家族・医師など関係者から得た情報を検討し、介護計画案を作成し、その後、計画作成担当者を中心として利用者の現状に即した介護計画が作成されている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録から、情報を共有し、新たに気付きや提案等をミーティングを通じて聴取し、ケアプランへ活かすよう努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	人員不足や建物構造等により、柔軟な対応がとれているかは疑問であるが、入居者や家族の状況によって、グループホームでの生活以外の対応や、支援にどのようなものがあるか？等情報収集に努めたい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	市報や地元職員の情報を元に近隣でのイベントや講習会へ参加等、地域資源の確認と活用を考えていきたい。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	2回/月の往診と随時の受診を行っている。又、毎週1回、情報提供をFAXにて行い、密な医療との対応を図っている。	月2回の協力医の往診のほか、必要なかかりつけ医への受診も適宜適切に支援されている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師の配置がない為、かかりつけ医院、保健師と連絡をとり、24時間連携が図れる体制となっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	かかりつけ医を中心に、情報交換を行い、見舞いを通じての状態把握等を行っている。又、戸田中央総合病院等、年末年始挨拶等を行いつつ情報交換を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時の説明とその後も入居者の状態に合わせ、どこまで対応可能か？今後どのようなことが考えられるのか？等を常に家族へ連絡し、方針を決めている。	重度化や終末期への対応については、職員間で意思統一されているが、現状では一部人材や設備などに課題があり、できる範囲での支援を考えられている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急対応研修を内部にて行い、外部講習への参加も促している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	2回/年の避難訓練を行っている。又、洪水時の非難場所として地域へ連絡されている。	火事・地震・風水害など、災害時対応マニュアルは整備され、夜間の発生を想定しての避難訓練も実施されている。町内の災害時避難場所に指定されるなど地域との協力体制も構築されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人の尊厳を守り、相手を尊重した対応や、言葉かけを行うよう、リーダーを中心に指導している。	利用者と団らんしている職員の表情や態度など慣れ合いにならず、年長者に対する礼儀をもった対応がなされている。居室ドア前には利用者好みの暖簾が掛けられ、プライバシー確保の面でもこまかな配慮がとられている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	出来る範囲、わかる範囲の最大限の要望に応じるよう努力している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	出来るだけ本人のペースを尊重した対応を行っているが、昼夜逆転等を生じた場合は、家族の理解を得て、生活リズムの修正を図る場合もある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の好みの洋服を持ってきて頂いており、可能な限り、好きな洋服を着て頂いている。外出時には化粧もしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	作業を行えるのはごく一部の入居者に限られてきているが、フロア内の台所で調理することで食事の雰囲気伝わり、自発的に集まるようになってきている。	食器は各フロア単位で個別のものが用意されており、定期的にローテーションし、いろいろな絵柄の器を楽しまれている。また、メニューもフロアによっては利用者が決め、買出しから始めるなど職員とともに楽しい時間を共有されている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	疾病による制限や個人的な好みに対応し、必要水分量やカロリーを決め、記録により把握している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行っているが、理解できない方も多く、含嗽が中心となっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	Dr.相談にて下剤調整を行いつつ、排泄チェック表を活用し、排泄パターンの把握や可能な限りでのトイレ誘導を行っている。	利用者ごとの持てる力や排泄パターンを掌握し、トイレでの排泄をするよう、こまめに声掛けするなど支援されている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	繊維の多い食材を取り入れたり、起床後の牛乳の飲用を促したり、個別に対応している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴チェック表を記入し、2～3日に1回の入浴を促しつつ、希望時には随時応じている。	入浴時間は13:30以降とされているが、夜間遅い時間に入られる利用者もおられる。入浴剤を入れたり、入浴を拒否される利用者には近くの温泉施設に誘うなど工夫されている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中での活動を多くし、夜間の眠りを促している。又、活動後にはお茶を出す等して休憩がとれるよう対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ケース記録内に服薬内容をファイルし、職員の意識付けを図っている。服薬時には職員間で確認しあい、ダブルチェックをする体制となっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴や日々の関わりの中から、それぞれにあった楽しみや役割を探り、それらが行えるような環境を整えている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	感染症の状況や本人の健康状態に留意しながら、外出の機会を計画・実践している。(初詣・花見・外食など)	事業所前の親水公園の散歩を日課とし、利用者の希望にそい、ドライブしての公園散歩のほか、浅草や巣鴨への外出支援も行われている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	普段の管理・保管は金庫にて行っているが、希望があり一緒に買い物へ出かける際には財布(本人の)を渡す等対応している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	知人からの手紙は直接手渡し、本人に開封して頂いている。又、返信の有無も確認している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	消臭や、室温管理に努め、職員の足音や話し声等にも留意している。 壁掛けや花など、季節感が味わえるよう工夫している。	各フロアともあたたかい雰囲気づくりを基本とし、リビングにはアンティークな食器棚が置かれ、季節の花や絵も飾られている。食事の時には穏やかな音楽を流すなど居心地良い空間づくりがなされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	個々の意思の尊重と、自由に空間を行き来できるような環境づくりに努めている。 廊下にソファを置き、少し離れた所でもくつろげるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際にはそれまで使っていた家具類を持ってきて頂き、必要に応じて追加している。	火の気のあるものや危険物を除き、馴染みのものを持ち込んでいただき、利用者が居心地良く過ごせるよう配慮されている。職員は日々の清掃のほか、楽しめたイベントの写真や好みの飾付け時や模様替えの時などに支援されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	“出来る事”“わかること”を生かした関わりや働きかけを行い、安全且つ最大限自立した生活が送れるよう日々の観察からケアを考えている。		

(別紙4(2))

事業所名 ふれあい多居夢 戸田

## 目標達成計画

作成日: 平成 22年 4月 13日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	35	参加できるスタッフ数に限りがあり、全員が通報や消火・避難訓練を行っていない。夜間想定訓練も始めたばかりの為、早急に実施し、スタッフ全員への周知を図る。	実際の器具や機器の操作をスタッフ全員が出来るようになる。 夜間災害発生時の対応をスタッフ全員が実施できるようになる。	通報操作手順や連絡網等マニュアルを更に追加し、訓練(2回/年)の際には操作者を変える等工夫をして、多くのスタッフが実践できる機会をつくる。又、かけつけ時間の測定等も訓練として行う。	6ヶ月
2	2	地域とのつながりが薄くなってきている。(入居者の重度化があり、行動参加が難しい)	地域との交流を図る。	①町会掲示板等で地域行事等を把握し、参加できそうなものがあれば町会長さんへ連絡し調整する。 ②1F談話室スペースを使い、スタッフの子供関連やボランティア等との交流を図る企画の立案と実行。	12ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注)項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。